



研究だより

佐賀県立唐津特別支援学校
2023(令和5)年3月9日発行
研究部 第3号



全校研究主題 子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくり
～育成を目指す資質・能力の3つの柱を視点とした授業実践～（3年次）

寄宿舎研究主題 子どもの主体的な学びと育ちにつながる生活づくり
～人とのかかわりの中でいきいきと生活する姿を目指して～（2年次）

合同学部研②「講演会」の紹介（5月）

西九州大学の久野隆裕准教授にお越しいただき、「子どもの主体的な姿とは？」
「子どもの見取りのポイント」「評価の視点」について講演をしていただきました。
本校で大切にしたい考え方について、年度初めに共通理解ができました。



全体授業研究会の紹介（10月）

学校行事「まつら祭」に向けた高等部農芸班の作業学習を提案授業として、全校で授業研究会を行いました。「事例生徒への3観点をふまえたねがいが生徒の様子に合っているか」「主体的な子どもの様子が見られるか」を協議の柱とし、小中高の職員を縦割りグループの班編成にし、協議を行いました。事例生徒の手立てについて活発に意見交換がなされました。協議後は、植草学園大学の名古屋恒彦教授より「まつら祭」に向けての作業場の盛り上がり具合や、個別の手立てなどの指導・助言をいただきました。農芸班では3学期の販売会で新商品が販売されるなど、充実した活動につながりました。



小学部・中学部の授業研究会の紹介

小学部では、1学期に知的障害学級の生活単元学習、肢体不自由Ⅱ課程の遊びの指導、2学期には知的障害学級の遊びの指導、肢体不自由Ⅲ課程の遊びの指導で授業研究会を行いました。単元のテーマの大切さや一人一人に合わせたできる状況づくり、個別の指導計画とのつながりなど、学部で大事にしたいことについても確認する機会になりました。

中学部では肢体不自由Ⅲ課程の生活単元学習で授業研究会を行い、主体的に活動できるための補助具や言葉かけ・かかわり等について知ることができ、それぞれの職員が各担当生徒への関わり方を見直し、その後の授業に生かされるいい機会となりました。

寄宿舎より

2年間継続して「主体的に活動する」ことを目指して研究に取り組んだことで、夏まつり等の寄宿舎全体の行事や各棟の活動、係活動など寄宿舎生活のいろいろな場面で子ども達が自ら進んで活動しようとする姿が多く見られました。

また、共同生活の場である寄宿舎で、子ども同士の関係性が深まり、お互いを分かり合うことで、周りを見て行動する力や他者を尊重する気持ちも見えてきました。

これからも、子ども達の発達段階や特性などを考慮しながら、一人ひとりの思いを汲み取り、子ども達の「主体性」を育んでいきたいと思っています。

3年間の研究を通して

令和2年度からの校内研究では、学習指導要領に書かれている育成を目指す資質・能力やカリキュラム・マネジメントを授業実践に取り入れながら、主体的に活動する子どもの姿を目指してきました。

3年間継続して取り組んだことで、育成を目指す資質・能力についての理解が深まり、子ども達を見取る視点とすることで、ねがい（目標）や手立て、評価が具体的になったという意見もできました。校内研究を通して実感したことは、子ども達にかかわる職員で子ども達の様子を共有し、その子どもの目指す姿や手立てを話し合い、実践し、振り返りを行うことが大切であるということです。

今後も、子ども達が学校を楽しみにしてくれるように、よりよい授業づくりを目指してまいります。